原著論文

大学院修士課程での助産師教育に対する看護学生の意見

北海道大学医学部保健学科

柴田　美佳，小林　眞生，田村　彩乃
コリー紀代，荒木　奈緒，荻田　珠江，佐川　正

The Opinions of Nursing Undergraduates on the Midwife Course at Master Degree Level

Department of Health Sciences, School of Medicine, Hokkaido University

Mika Shibata, Chikao Kobayashi, Ayano Tamura,
Noriyo Colley, Nao Araki, Tamae Ogita, Tadashi Sagawa

Abstract

The purpose of this research is to clarify nursing undergraduates' awareness of the midwife license course at master degree level to ascertain their needs in postgraduate education. A questionnaire was disseminated to the third and fourth year students from a university. The contents of the questionnaire were the necessity and advantages of the shift of midwifery course,willingness of entrance, and the reason. 58.0% of general nursing course students and 84.6% of midwifery course students replied there is need for a midwifery course at master degree level. More than half of the students replied that midwifery education needs to be at postgraduate level. The most frequent answer was "to obtain advanced and specific knowledge and skill requirement for midwives", which supersedes "to obtain research skills" and "to train educators". Other expectations for the new course were"possibility for midwives to be more independent despite the clinical area", "demand for advanced knowledge in relation to gynecology and pediatrics". 11.4% of general nursing students wanted to be midwives, of them being able to obtain a master degree was the most frequent answer. "Diagnosis and care for normal/abnormal delivery", and "caring for high-risk mother and child" were described as important subjects for the master course curriculum.

Key words：大学院，助産師，教育，看護学生
A graduate school, midwife, education, a student nurse

概　要

大学院修士課程での助産師教育に対する看護学生の意識を調査し，看護学生がどのような大学院での助産師教育を望んでいるのかを検討することは，今後の大学院での助産師教育の在り方を考える上での一助となると考え，本研究を行った。A大学看護学専攻に在籍している女子学生（3年生64人，4年生66人）を研究対象とした。大学院で助産師を養成することの必要性とメリット，大学院とそれ以外の助産師養成コースへの進学の意志とその理由などについてアンケート調査を行った。一般学生（助産選択以外の学生）と助産選択学生（助産師課程の履修を許可された学生）の意見に共通して見られた特徴は以下の点であった。

1．「大学院での助産師教育が必要である」と答えた者が過半数を占めた（一般：58.0%，助産：84.6%）。その理由としては，「助産師に必要な高度で専門的な知識や技術を身につける必要がある」が最も多く，「研究能力を身につける必要がある」，「教育者を養成する必要がある」を凌いでおり，助産学の実践的で専門的な技術の習得に，より必要性を見出していると考えられた。

2．大学院での学習によって「院内助産所，助産

師外来，助産所で活躍できる自立した助産師をめざせる」という意見が多くみられた。

3．大学院に求める教育内容として，「助産学に関することだけでなく，医学的知識（産婦人科，小児科など）の強化をしてほしい」という意見が多くみられた。

また，一般学生の中で将来，助産師になりたいと考えている者は11.4%であり，助産師の資格の取得方法としては大学院修士課程への進学を考えている学生が最も多かった。さらに，大学院の助産課程で学ぶ場合に力を入れてほしいこととしては，「正常分娩・異常分娩の診断とケア」，「ハイリスク母子のケア」などの分娩期の学習を挙げている学生が多かった。助産師養成の大学院では，以上のような看護学生の希望を取り入れたカリキュラムの整備も必要と考えられた。

Ⅰ．緒　言

現在，看護学生が助産師国家試験の受験資格を取るためには５つのコース（大学院，大学専攻科・別科，大学，短期大学専攻科，専門学校）が用意されており，それぞれの教育機関が独自のカリキュラムを編成している。しかし４年制大学で助産学を選択制で学ぶ場合には，一大学当たりの養成者数は平均８人と伸びず，カリキュラムも過密化するため，教育の質保障の面から懸念が示されている[1]。最近８年間の助産師養成校の傾向を見ると，大学の数が増える一方で，短期大学専攻科数が減少し，専門学校数は横ばいで，大学専攻科と大学院が新しく登場してきた[1]。しかし，看護学生の大学院での助産師教育に対する意識に関する研究は全く行われていないのが現状である。

Ａ大学大学院修士課程では，平成20年の設立以来，毎年の看護学コースへの進学者は平均1.8名と少数である。しかし，平成26年４月にＡ大学大学院修士課程の看護学コースにおいて助産師養成課程が新たに設立されることが決定し，現在その教育内容が検討されているところである。平成22年度の助産師養成課程のある看護系大学院での平均定員は13.4名であり，今後Ａ大学大学院に助産師養成課程が設置されると，看護学コースへの進学者数は大幅に増加すると予想される。

以上のことから大学院での助産師教育に対する看護学生の意識を調査し，看護学生がどのような大学院での助産師教育を望んでいるのかを検討することは，今後の大学院での助産師教育の在り方を考える上での一助となると考え，本研究を行った。

Ⅱ．研究方法

A．研究デザイン

質的量的研究

B．研究期間

2011年４月～12月

C．対象者の選定

Ａ大学看護学専攻に在籍している女子学生（３年生64人，４年生66人）に対してアンケート調査を行った。

D．データの収集方法

大学院で助産師を養成することの必要性とメリット，大学院とそれ以外の助産師養成コース（大学専攻科・別科，大学，短期大学専攻科，専門学校）への進学の意志とその理由等について調査した。アンケートは記入後に回収箱に入れ回収した。

E．データの分析方法

統計解析はStat Mate®を用い，χ^2検定・G検定により統計学的に分析した。なお，$p<0.05$を有意水準とした。

F．倫理的配慮

本研究は北海道大学大学院保健科学研究院の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：11-36）。また，対象者には研究の趣旨について書面及び口頭で説明し，アンケートの提出により研究協力への承諾とみなした。その際，研究に使用するデータは研究目的以外には使用しないこと，不参加による不利益はないこと，回答した内容が個人を特定される形で開示されることはないことなどを説明した。

Ⅲ．研究成績

将来助産師として活動することを希望して助産師課程の履修を許可された学生を「助産選択学